

## 第2次岐阜県教育ビジョン検討委員会

### 第4回 小・中学校における学力向上専門委員会 主な意見

H25. 7. 31(水) 13:30~15:30 教育委員会室

## ◆◇第2次教育ビジョン重点政策「学力向上を核とした義務教育の充実/改善」について◆◇

### (1) 第2次教育ビジョン重点について

#### ①「自ら学ぶ児童生徒の育成」

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着のみならず、自ら課題を見つけて解決していく力やコミュニケーション能力、学習意欲を伸ばし、自ら学ぶ子どもを育成したい。
- ・自ら学ぶ子どもを育成するためには、「分かる」という実感だけでなく、子どもに自信をもたせることが必要である。
- ・考えることのみ力を入れるのではなく、子どもが本当に分かっているか評価しながら授業を行う必要がある。

#### ②「地域・保護者との連携」

- ・家庭学習についても、子どもが「できた」と実感できるよう配慮する必要がある。
- ・学校の先生方がこんなに努力してみえることを知らせてほしい。保護者が協力できるところがある。
- ・コミュニティ・スクールの中で、補充的な学習をする場をつくることも考えられる。
- ・社会貢献をすすめる企業の力を活用することも考えてみてはどうか。

#### ③「岐阜県としての成果指標」

- ・市町村教育委員会や各小・中学校が使える指標を示したい。
- ・全国学力・学習状況調査の正答率について全国平均との比較だけでなく、岐阜県としてぶれない指標が求められている。
- ・学力と相関があるもの、例えば学ぶ意欲が学力と相関があるとすれば、学ぶ意欲を指標とするというのも、1つの方法であると考えられる。

#### ④「小学校からの教科専門性向上」

- ・子どもの発達の段階を踏まえると、教科担任制は小学校高学年からが効果的であると考えられる。特に、学力差に応じた指導には有効であると考えられる。
- ・小学校の教科担任制を進めるのであれば、教員の配置にも配慮していただく必要がある。

#### ⑤「学び直し」

- ・学び直しには生涯学習の視点が伴う。
- ・小学校高学年で習熟度別少人数指導を行っているが、小学校低学年ですでにつまずきが生まれて、その後、徐々に差が広がっているのではないか。そのことに対応した指導体制を考える必要があるのではないか。
- ・小・中学校での「学び直し」は、高等学校の「学び直し」とは意味合いが異なり評価や補充の徹底と学習意欲を高めることを大切にしたい。

### (2) ビジョンの内容全体について

- ・岐阜県全体の学習状況があるとよいのではないか。
- ・全国学力・学習状況調査の結果だけでなく、よさや努力しているところ、これまでの取組の成果を示すとよいのではないか。
- ・部分的にはよさを認められていても、全体的には「頑張れ、頑張れ」といわれているように読み手が受け止めてしまわないよう、内容を吟味したい。